

# とやまの砂防

第80号

令和7年8月20日  
発行



## CONTENTS

|                                          |   |
|------------------------------------------|---|
| 常願寺川水系 雑穀谷砂防事業                           | 1 |
| 土砂災害防止月間パネル展を開催                          | 2 |
| 令和6年度<br>土砂災害防止に関する作品募集 入賞者決定            | 2 |
| おらっちゃんの砂防 南砺市砂子谷における土砂災害                 | 3 |
| 土木センター・事務所紹介<br>(高岡土木センター氷見土木事務所の砂防事業)   | 3 |
| 後進に告ぐ                                    | 4 |
| 土砂・洪水氾濫対策について                            | 5 |
| 令和7年度富山県砂防ボランティア協会<br>通常総会の開催(新体制での活動始動) | 5 |
| 令和7年度 富山県砂防関係事業の概要                       | 6 |
| 出水期前の土砂災害に係る<br>防災関係機関との連携               | 6 |
| 「全国治水砂防協会通常総会」が開催される                     | 7 |
| 世界防災フォーラム、<br>砂防学会研究発表会における立山砂防のPR       | 7 |
| 「土砂災害防止全国の集いin宮城」が開催!                    | 7 |
| 立山カルデラ砂防博物館ニュース                          | 8 |

## 写真の解説

### 常願寺川水系 雑穀谷砂防事業

雑穀谷は、富山県南東部の立山山麓に位置する我が国屈指の荒廃河川、一級河川常願寺川の支流であり、霊峰立山連峰の麓、大日平を源とする急流渓流です。

この流域は、山腹や溪床に不安定な土砂が多量に堆積し、荒廃が進んでいることから、富山県では、下流地域の集落、道路等、人命や財産を土砂災害から守るため、昭和27年度より砂防事業に着手しております。

令和6年度までに砂防堰堤10基および3基の床固工を整備したところですが、依然として多量の不安定土砂が堆積していることから、現在も砂防堰堤の工事を実施しております。

## 土砂災害防止月間パネル展を開催

近年頻発する土砂災害から人命・財産を守るため、毎年6月を「土砂災害防止月間」と定め、全国的に、土砂災害の防止や被害の軽減を図るための取組みを実施しています。富山県では、この取組みの一環として、関係機関と連携してパネル展を6月2日から6月27日まで県防災危機管理センター及び富山ステーションフロントCiCにおいて開催しました。

過去の土砂災害の発生状況や施設による災害防止効果、警戒避難に関する様々な取組み、立山の厳しい自然についてなどのパネルを展示しました。この展示を通して、県民及び富山県を訪れた方に土砂災害に関する理解を深めてもらい、防災への備えが身近に感じていただけるようPRしました。



パネル展（県防災危機管理センター）



パネル展（CiC）

## 令和6年度 土砂災害防止に関する作品募集 入賞者決定

土砂災害に対する理解と関心を深めるため、土砂災害防止月間（令和6年6月1日～6月30日）の行事の一環として、県内の小・中学生を対象に「土砂災害防止に関する絵画・作文」を募集したところ、計79点（絵画41点、作文38点）のご応募をいただきありがとうございました。ご応募いただいた作品を審査した結果、下記9名のみなさんが受賞されました。

令和7年度も同様に募集しておりますので（令和7年9月19日まで）、たくさんの作品をお待ちしております。

### 1 国土交通省表彰

（敬称略 学校・学年は応募時）

#### 1) 優秀賞（事務次官賞）

絵画（中学生）の部：富山市立城山中学校 1年 山藤 玲愛

### 2 富山県表彰

#### 1) 富山県土木部長賞

絵画（小学生）の部：小矢部市立石動小学校 4年 佐野 楓芽

絵画（中学生）の部：小矢部市立大谷中学校 1年 福岡 銀河

作文（小学生）の部：小矢部市立石動小学校 6年 吉田 桂涼

作文（中学生）の部：富山市立岩瀬中学校 1年 清水 絢太

#### 2) 富山県治水砂防協会長賞

絵画（小学生）の部：高岡市立博労小学校 6年 内多 結愛

絵画（中学生）の部：射水市立小杉南中学校 1年 林 真帆

作文（小学生）の部：小矢部市立石動小学校 6年 生駒紗友里

作文（中学生）の部：高岡市立南星中学校 3年 石川 昊樹

### 富山県表彰

#### 富山県土木部長賞



小矢部市立大谷中学校  
1年 福岡 銀河



富山県表彰  
富山県土木部長賞  
小矢部市立石動小学校  
4年 佐野 楓芽



高岡市立博労小学校  
6年 内多 結愛



射水市立小杉南中学校  
1年 林 真帆

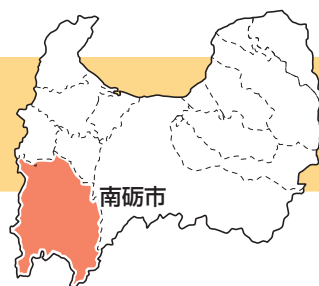
### 富山県表彰

#### 富山県治水砂防協会長賞



## 南砺市砂子谷における土砂災害

南砺市建設維持課 齋藤 卓巳



南砺市は、富山県南西部に位置し、面積は668.64km<sup>2</sup>でそのうち約8割が森林であるほか、岐阜県境に連なる山々に源を発した庄川や小矢部川の急流河川が北流するなど豊かな自然に恵まれています。その一方で、土砂災害警戒区域が563箇所指定されているなど、日常において土砂災害をはじめとする自然災害の危険と隣り合わせています。

近年では、令和5年7月11日から14日までの記録的豪雨により、南砺市砂子谷地内において被災延長約67mの大規模な土砂崩れが発生し死者1名、全壊1棟となる甚大な被害を受けました。市は、当該箇所について公共土木施設災害復旧事業の認定を受け、昨年より復旧工事を進めており、今年度中の施工完了を目指しています。また、被災箇所周辺は土砂災害特別警戒区域に指定されており、隣接する急傾斜地についても、県の補助制度（富山県急傾斜地崩壊対策事業補助金）を活用して急傾斜地崩壊対策工事を実施することとしています。一方、地域住民の高齢化が

進む中で、地域の「共助力」を強化する取組として、昨年当該地区において南砺市社会福祉協議会の指導のもと「災害時支え合いマップ」を制作し、このマップを活用した防災訓練を実施するなど、地域全体で防災への意識が高まっています。

今回の災害を教訓として、市民の皆様が日頃から防災に対する心構えを持っていただき、住民と行政が一体となり市全体として防災力を高めていけるよう、ハード・ソフト両面から災害対策に努めてまいります。



砂子谷災害復旧工事状況(令和7年6月時点)



災害時支え合いマップづくりの様子

## 土木センター・事務所紹介 高岡土木センター氷見土木事務所の砂防事業

当事務所は、県の北西部、能登半島の基部に位置する氷見市1市を所管しています。氷見市の人口は約4万人で県全体の約4%、面積は約230km<sup>2</sup>で県全体の約5%に相当します。

氷見といえば全国的に有名な「氷見寒ぶり」や「富山湾越しに望む立山連峰」など、海や魚のイメージがありますが、面積の約6割を山林が占め、脆弱な地質と相まって、県の土砂災害警戒区域等の約25%（1,245区域）が集中しています。

過去には胡桃地区や国見地区、谷屋地区などで大規模な地すべりが発生したほか、崖崩れなど数多くの土砂災害に見舞われており、砂防、地すべり対策、急傾斜地崩壊対策の各事業を鋭意進めてきています。

このうち地すべり対策事業では、過去には年間数m単位の移動量が確認され、地すべりでは日本で唯一の土砂災害特別警戒区域（レッド）に指定されている胡桃地区において昭和39年度から事業を実施し、平成28年度までに「頭部排土+押え盛土工」が完了しました。現在では、こ



(砂防事業) 山崎谷堰堤

れまでの対策の効果もあって地すべりブロックをほぼ沈静化させることができました。引き続き胡桃川の護岸工事等を計画しています。

砂防事業では、令和6年、山崎谷堰堤が完成し、地域の皆様から砂防設備完成に対する感謝や慶びの言葉をいただきました。

急傾斜地崩壊対策事業では、令和6年能登半島地震により斜面崩壊した園(2)地区において、不安定土塊の除去作業を実施するとともに観測計器を設置し関係者に通報される情報連絡体制を整えたところです。現在、急傾斜地崩壊防止施設の整備に向け埋蔵文化財協議や測量設計等を進めています。

管内にはまだ多くの未対策の区域が残っており、近年では土砂災害の発生も増加し、住民の防災に対する関心が高く要望も多岐にわたっています。今後とも、市と協力しながら土砂災害の防止に努めていきたいと考えています。



(急傾斜地崩壊対策事業) 園(2)地区



## 1 プロローグ3

本年6月、富山県土木部、そして砂防課の先輩である前氷見市長の林正之さんが逝去されました。ご本人も公言しておられたとおり、林さんは生まれ育った氷見市を地すべりをはじめとした土砂災害から守りたいとの強い思いから、大学で土木工学を専攻され、昭和54年に富山県に奉職されました。砂防課には、地すべり係技師、主幹、課長として3度勤務され、その間、氷見市谷屋地区の地すべり災害の復旧や土砂災害警戒区域等指定の推進、南砺市豪雨災害の緊急対応、そして立山砂防の世界文化遺産登録の取り組みなど、困難な課題に対して真摯に向き合われ、多くのご功績を残されました。どんなに忙しい時でもお酒を酌み交わせばいつも明るく、カラオケでは美声も披露していただきました。厳しくも心優しき先輩でした。本当にありがとうございました。心よりご冥福をお祈りいたします。

## 2 エピソード3 (砂防課主幹・課長補佐・地すべり係長時代)

小生といえば、平成23年4月、東日本大震災の直後、3回目の砂防課勤務となった。平成13年の土砂災害防止法（以下、土砂法という）の施行から10年余りが経過し、本県においても土砂災害警戒区域等の指定が順次進められ、調査対象箇所5千箇所のうち約8割の指定が完了していた。

### 「土砂災害防止法」とは

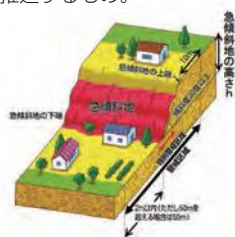
土砂災害から住民の生命を守るため、土砂災害のおそれのある区域について、警戒区域等に指定し、危険の周知、警戒避難体制の整備、住宅等の新規立地の抑制等のソフト対策を推進するもの。

### ○土砂災害警戒区域（イエローゾーン）

- ・地形的に土砂災害のおそれのある区域
- ・警戒避難体制の整備等を推進

### ○土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）

- ・土石等の外力により建築物が損壊
- ・住民の生命に著しい危害が生じる区域
- ・住宅等の新規立地抑制
- ・建築物の構造規制



区域指定のイメージ図

### ①黎明期（出港準備）

富山県では、平成12年から砂防基盤図の作成や調査対象箇所の抽出に取り組んでいたが、全国と同様に、私権の制限が伴うため、「どこから、どのように」が決まきせず、その後の基礎調査や区域指定が遅々として進まなかった。

船舶の航海になぞらえると、小生を含め船員が海図や目的地の準備は進めていたが、船長や航海士、機関長が不在であった。

その時、登場されたのが林正之さんである。平成15年から2年間、砂防課主幹として土砂法を担当された。

まず初めに、船長として「どうせ苦労するのだから1度にやろう。」と、レッドとイエローを同時指定する方向に舵を切られた。

次に、航海士として「どこから進めるか」を決めた「富山県指定基本方針（案）」（羅針盤）を、機関長として「どのように進めるか」を決めた「富山県基礎調査マニュアル」（航海マニュアル）を策定された。1人3役の獅子奮迅の働きにより出航準備が整った。

### 富山県における基礎調査・区域指定の羅針盤と航海マニュアル

#### ○「富山県指定基本方針（案）」（羅針盤）

- ・対象箇所が約5千箇所と多く、予算面でも制約あり
- ・計画的に調査・指定を進めるため、防災や法律などの専門家の助言、過去の災害や自然や社会的特性を踏まえ、客観的な評価指標で県内市町の優先順位等を定めた。

#### ○「富山県基礎調査マニュアル（案）」（航海マニュアル）

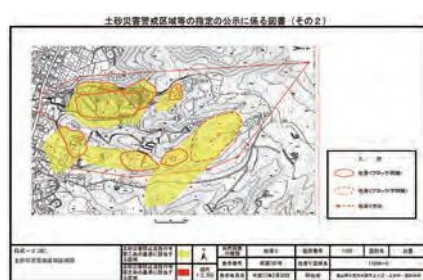
- ・私権の制限を伴う特別警戒区域は慎重かつ適切な設定が重要
- ・土石等の外力を算定するため、過去の災害や地質特性を整理
- ・モデル地区での検証を経て、土質定数など技術的事項を定めた。

### ②巡航期（土砂災害警戒区域等指定の推進）

漸く、富山県における土砂災害警戒区域等の区域指定に向けた航海が始まった。平成17年3月、県内で初めて土砂災害警戒区域が指定された。林

さんが災害復旧工事から区域指定まで一貫して関わられた氷見市谷屋地区である。地元氷見市への熱い思いが詰まった区域指定であった。

これを皮切りに県内の警戒区域等の指定が進み始めた。特に、林さんが「砂防課長に俺はなる」と常々公言されたとおり、課長となられ、在任2年間に約2千箇所の指定がなされた。出先機関による丁寧な住民説明会の開催や指定担当者の



警戒区域公示図書（谷屋地区）

の努力はもちろんであるが、林さんが船長として、「面舵いっぱい、取り舵いっぱい」と声を張り上げ、船を進められたお陰である。その後、小生が担当主幹として、残る1千箇所程度の指定手続きを進め、平成25年度末に当面の指定が完了した。会計検査対応や苦情処理など大時化あり風ありの航海ではあったが、林さんのお陰で迷うことなく進むことができたと考えている。

### ③警戒避難体制の強化・充実

全国的に警戒区域等の指定が進むにつれ、高齢者等の要配慮者利用施設（以下、施設という）が被災する事例が見受けられ、避難計画や情報伝達の不備が指摘された。平成23年に県内の施設でヒアリングしたところ、避難計画に土砂災害に関する記載がない事例が散見された。

このため、「まずは土砂災害を知ってもらうこと」、「とにかく分かりやすく、簡単に」を念頭に、施設向けの「土砂災害警戒避難マニュアル作成ガイドライン」の作成に着手した。期間は約半年と短かったが、担当のH主任とポイントや解説を交え、穴埋め形式のひな形も作成するなど何度も何度も検討し、平成24年3月に取りまとめた。これにより、順次、施設の避難計画が作成された。

平成29年に土砂法が一部改正され、これら施設の避難確保計画及び避難訓練の実施が管理者等に義務付けられ、現在、市町の地域防災計画に記載の施設では防災マニュアル等が整備されている。引き続き、市町等と連携した避難訓練の実施など、日頃の備えを確認され、災害発生時の円滑な警戒避難行動に繋げていただきたい。

### ④新たな区域指定に向け

従前の基礎調査時には抽出されず、警戒区域等に未指定の箇所でも土砂災害が発生し人命が失われる事例が全国で発生した。

このため、富山県では令和2年度から高精度の地形情報整備や新規箇所抽出、砂防基盤図作成に着手された。令和8年度からは新たな基礎調査に着手され、新たな警戒区域等の指定が進められる予定である。簡単ではないと思うが、土砂災害から住民の安全を守りたいという、強い気概を持って取り組んでいただきたい。

## 3 エピソード3

表題の「土木技術者として一番大切なものは」。これは県庁の採用試験の面接で受けた質問である。高い志もなく、漫然と学生時代を過ごした小生には大変難解な質問であった。背中にいやな汗をかきながらも優しい試験官から建造物の設計や施工でも大切なものだといったヒントをいただき、ようやく答えである「安全」に辿り着いた。以来、その時の教え「安全」を肝に銘じて仕事に取り組んだつもりである。砂防課で長らく土砂災害対策、「安全」な暮らしの確保に携われたのも何かの縁だと考えている。現在、富山県砂防ボランティア協会で、防災教育をはじめ土砂災害防止の普及啓発活動を行っている。微力ではあるが、富山県や関係の皆様と連携しながら、土砂災害から県民の安全を守る取り組みを進めてまいりたい。（おわり）



警戒避難マニュアル作成ガイドライン



R2.1 学習型避難訓練（施設・国・県・市町・砂防ボランティア協会の協働）

## 土砂・洪水氾濫対策について

土砂・洪水氾濫とは、豪雨により上流域から流出した多量の土砂が谷出口より下流の河道で堆積することにより、河床上昇や河道埋塞が起こり、扇状地や谷底平野等の緩やかな勾配の開けた市街地等で広範囲にわたり土砂と泥水の氾濫が発生する現象であり、甚大な被害を及ぼしています。

近年の気候変動に伴う降雨量の増加により、全国において土砂・洪水氾濫による被害が頻発しており、今後も発生頻度が増加する恐れがあります。

砂防課では、今年度より先行して、片貝川および早月川流域において、土砂・洪水氾濫対策事業を実施するとともに、県内その他流域においては、土砂・洪水氾濫リスクの高い流域を調査します。

○片貝川水系 片貝川 大規模特定砂防等事業（魚津市三ヶ外地内）

- ・全体事業費：約42.5億
- ・主たる工種：溪流保全工2,380m（床固工2基）、遊砂地工1基、堰堤工1基、堰堤改良工1基

○早月川水系 早月川 大規模特定砂防等事業（滑川市菟輪外地内）

- ・全体事業費：約24.2億円
- ・主たる工種：堰堤工1基、溪流保全工600m（床固工3基）



土砂・洪水氾濫イメージ図（国土交通省HPより）



土砂・洪水氾濫イメージ図（国土交通省HPより）



土砂・洪水氾濫の発生事例（国土交通省HPより）

## 令和7年度 富山県砂防ボランティア協会通常総会の開催（新体制での活動始動）

令和7年5月14日、富山県砂防ボランティア協会の通常総会が富山県防災危機管理センター中会議室で開催されました。南保会長の挨拶にはじまり、物故会員への黙とう、11名の新会員紹介ののち議事の審議に入り、令和6年度事業報告、決算報告に続き役員改選案、令和7年度事業計画案、予算案が審議され、原案どおり承認されました。役員改選では会長を2期4年務められた南保仁士氏に代わり中野聡一郎氏が選任されるなど、新たな体制での活動がスタートしました。

5月23日には施設の緊急点検や被害状況の収集・伝達など災害対応を確認する『土木部地震時初動対応訓練』に13名の協会員が、6月の土砂災害防止月間にあわせて小矢部市ほか2市で行われた『土砂災害危険箇所パトロール』には5名の協会員が参加されました。また、6月18日には石動小学校において小矢部土木事務所との協働による子供砂防教室が開催されました。7名の協会員が参加し、6年生の児童53名が体育館での座学や地すべりの模型実験に続き、学校の裏山でボーリング孔からの排水量や地下水位を測定するなど、地すべりの仕組みや対策工法を学習しました。

子供砂防教室



通常総会



土砂災害危険箇所パトロール

# 令和7年度 富山県砂防関係事業の概要

## 令和7年度砂防関係事業費

令和7年度の富山県砂防関係事業当初予算は、前年度より2億4,600万円減 (-3.8%) となる総額61億6,900万円となりました。

なお、国土強靱化のための5か年加速化対策や労務資材価格の高騰対策として、令和6年度補正予算を合わせた16ヶ月予算では、前年度より1億1,900万円増 (+1.6%) となる総額77億2,800万円を確保し、県民の「安全・安心」確保のための土砂災害対策を計画的・重点的に推進してまいります。

| 区 分              | R7 当初予算(千円)              | R6 当初予算(千円)              | 率 R7/R6          | 備 考                              |
|------------------|--------------------------|--------------------------|------------------|----------------------------------|
| 一般公共事業<br>(災害含む) | 4,240,000                | 4,267,000                | 99.4%            | 補助事業<br>交付金事業                    |
| 主要県単事業           | 427,000                  | 429,000                  | 99.5%            | 砂防改良、砂防維持修繕<br>小規模急傾斜補助          |
| 直轄砂防事業負担金        | 1,502,000                | 1,719,000                |                  | 常願寺川水系(立山砂防)、黒部<br>川水系、神通川水系直轄砂防 |
| 合 計<br>(直轄負担金除く) | 6,169,000<br>(4,667,000) | 6,415,000<br>(4,696,000) | 96.2%<br>(99.4%) |                                  |

## 県民の「安全・安心」確保のための土砂災害対策の推進

### (1) 砂防総合交付金事業及び砂防関係施設整備事業による土砂災害防止施設の整備

|            |                    |
|------------|--------------------|
| 砂防事業       | 小川水系石谷川【朝日町】等 52箇所 |
| 地すべり対策事業   | 胡桃地区【氷見市】等 17箇所    |
| 急傾斜地崩壊対策事業 | 本江(2)地区【滑川市】等 17箇所 |
| 雪崩対策事業     | 上笹原清水地区【富山市】 1箇所   |



砂防事業 小川水系石谷川



地すべり対策事業 胡桃地区

### (2) 砂防施設の老朽化対策

富山県砂防関係施設長寿命化計画に基づき、補助事業の「砂防メンテナンス事業」を活用し計画的・集中的に老朽化対策を推進

### (3) 円滑な警戒避難のための支援

#### 土砂災害危険箇所の周知

土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域等の指定の推進

市町村が実施する土砂災害ハザードマップ作成など警戒避難体制の整備について支援

#### 土砂災害情報の提供

警戒避難を支援する土砂災害警戒情報の充実

#### 土砂災害の警戒避難体制等の整備

要配慮者利用施設の避難確保計画作成支援、防災講習会、防災訓練などによる防災リーダーの育成、住民の防災意識の向上



急傾斜地崩壊対策事業  
本江(2)地区

## 立山砂防の世界文化遺産登録に向けた取り組み

### ■立山砂防・県営砂防施設群価値付け事業

世界遺産登録に向けて立山砂防および県営砂防施設群の価値付け調査を行い、世界に発信するため、国際防災学会インタープリバント(札幌開催)等での発表論文を作成する。

### ■立山カルデラ砂防体験学習会

団体・個人コースを実施し、安政大災害やこれまでの防災の歴史や取り組みを、県民等に伝えるための啓発活動を行う。

## 出水期前の土砂災害に係る防災関係機関との連携

令和7年5月9日に砂防事業担当者会議を開催し、市町村・土木センター・事務所職員など、55名に参加いただきました。会議では、県砂防課からの砂防事業等の説明に加え、富山地方気象台から「令和6年の土砂災害警戒情報の検証結果、令和8年出水期から開始する防災気象情報の改善」について、富山県砂防ボランティア協会から「富山県砂防ボランティア協会の活動」についてご講演いただいたほか、北陸地方整備局及び直轄砂防事務所から最近の砂防事業についてご紹介いただきました。

令和7年6月6日には、県砂防課と土木センター・事務所、気象台、市町村、消防本部等の間で、土砂災害警戒情報の情報伝達訓練を実施しました。富山県土砂災害警戒情報支援システムから各機関にFAX等で発表文を送信し、連絡系統やシステム機器の使用方法について確認を行いました。



5/9 砂防事業担当者会議



6/6 情報伝達訓練

## 「全国治水砂防協会通常総会」が開催される

令和7年5月29日（木）、砂防会館別館シェンバツハ・サボー「利根」において、70名の衆・参両院の国会議員並びに全国の市町村長など、全体で1,000名超の方々のご出席により「全国治水砂防協会令和7年度通常総会（第89回）」が開催されました。富山県からも田中南砺市長、夏野砺波市長、杉田立山副町長及び富山市沼崎建設部次長の4名の会員が出席しました。

総会開会前には、東京大学名誉教授 平田 直氏による「南海トラフ地震災害に備える」と題した特別講演がありました。

総会では、森山会長の挨拶、国定国土交通大臣政務官からの祝辞のあと、議事に入り、令和6年度事業報告・収支決算審議、令和7年度事業計画報告・収支予算報告及び役員選任等審議案件については原案どおり満場一致で承認されました。

総会終了後に、富山県治水砂防協会前副会長である林 正之前氷見市長の長年の功績を称え、功労者表彰が贈呈されました。なお、林 正之氏におかれては、総会後の6月にご逝去されました。改めて長年のご功績に感謝申し上げるとともに、心よりご冥福をお祈りいたします。



## 世界防災フォーラム、砂防学会研究発表会における立山砂防のPR

「立山砂防」の世界文化遺産登録に向けた取組について、令和7年3月7日、8日に宮城県仙台市で開催された世界防災フォーラムに参加し、「world Bousai Expo」に富山県ブースを出展しました。世界に誇る防災遺産である立山砂防の国際的な価値、世界文化遺産登録に向けた富山県の取り組みをポスター・VR・アニメ等の分かりやすいコンテンツを活用しPRしました。多くの国内外の防災関係者に加え、防災に関心の高い一般の方、大学生・高校生など、幅広い年代の方に説明しました。

また、令和7年5月28日29日に、長野県長野市で開催された令和7年度（公社）砂防学会研究発表会「長野大会」に参加してポスター発表を行いました。直轄砂防事業開始前の1906年から1925年に実施された富山県による砂防事業「県営砂防」について紹介しました。



海外の方への説明



VR動画を用いた説明



砂防学会研究発表会でのポスター発表

## 「土砂災害防止全国の集いin宮城」が開催！

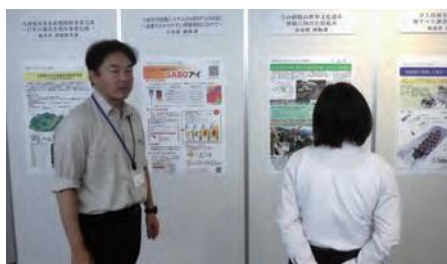
令和7年6月10日（火）、仙台サンプラザホール（宮城県仙台市）において、「平成20年岩手・宮城内陸地震、令和元年東日本台風2つの土砂災害を経験した宮城県より～複合災害（大規模地震災害後の豪雨災害）に備える～」という開催テーマのもと、令和7年度（第43回）土砂災害防止「全国の集い」が開催されました。

会場では、ポスター展示『行政・地域の一押し取組報告』が行われ、富山県からは「立山砂防の世界文化遺産登録に向けた取組」について報告しました。集いでは、NHK解説主幹の松本浩司氏による基調講演、丸森町長の保科郷雄氏による特別講演及びパネルディスカッションが催されたほか、土砂災害防止功労者表彰式にて、富山県からは尾畑納子氏（富山国際大学教授、立山砂防女性サロンの会前会長）が表彰されました。

また、連携行事として令和7年度砂防ボランティア「全国のつどい」が開催され、富山県からは中村信悟氏（富山県砂防ボランティア協会）が砂防ボランティア活動等功労者表彰を受けられました。



開会式典



パネル展示



砂防ボランティア活動等功労者表彰

# 富山県 立山カルデラ砂防博物館ニュース

「立山や立山カルデラの自然や歴史、そこで行われている砂防」をテーマに様々な企画、展示を行っています。

★申し込み、詳細については HP をご覧ください。

## ■今後の企画展・特別展のご案内（観覧料：無料）

### ◆企画展「雨—恵みと脅威—」

開催期間：7月19日（土）～10月5日（日）

雨は私たちの生活に恵みとともに脅威をもたらします。誕生の秘密、降水量、災害などについて詳しく紹介します。

### ◆特別展「御嶽山—水蒸気噴火と火山災害—」

開催期間：10月11日（土）～12月14日（日）

死者58名、行方不明者5名に達した戦後最悪の火山災害である2014年御嶽山噴火をはじめ、2015年箱根火山水蒸気噴火、2018年草津白根山噴火など近年発生した水蒸気噴火による火山災害について紹介します。

## ■野外体験イベントのご案内

### ◆立山カルデラ砂防体験学習会

開催日：7月24日～10月10日 木・金（全16回）

定員：各回 20名～40名 ※要事前申込

普段立ち入ることができない立山カルデラを訪ね自然や歴史、砂防について体感します。

博物館のホームページからお申込みください。

※今年度は新たに「立山温泉跡バスコース」を加えた、バスでカルデラを往復する3コースを開催します。

小学3年生以上（小・中学生は保護者同伴）

問い合わせ：TEL 076-481-1363（学芸課）

### ◆フィールドウォッチング

立山の自然や歴史について各分野の学芸員や博物館アドバイザーが解説し、現地をご案内します。

小学3年生以上（小・中学生は保護者同伴）

問い合わせ・申し込み：

一般社団法人 地域・観光マネジメントまで電話

またはHP「北陸探訪」からお申し込みください

TEL 076-471-6103（先着順）

受付開始日はコースによって異なります。

詳細はHP「北陸探訪」にてご確認ください。

「立山の氷河眺望」 8月23日（土）

「室堂山とカルデラ展望」 9月7日（日）

「有峰の断層と大地のかたちを探る」 10月18日（土）



FW「立山の氷河眺望」

## 立山カルデラ 砂防博物館の 開館案内

開館時間：9:30～17:00（入館は16:30まで）。※夏休み期間7/19～8/31、9月10月の連休は9:00開館

休館日：月曜日（祝日除く）祝日の翌日（土・日曜日除く）、年末・年始（12/28～1/4）

観覧料：立山カルデラ展示室・大型映像の観覧料として一般400円（70歳以上無料、年齢の確認できるものを持参ください）、大学生以下無料、企画展示室・SABO展示室は無料

所在地：〒930-1405 富山県中新川郡立山町芦峯寺字ブナ坂68

TEL 076-481-1160 / FAX 076-482-9100 / ホームページ <https://www.tatecal.or.jp/tatecal/index.html>